



2021年3月期
(2020年4月1日 ~ 2021年3月31日)

決算説明資料

ENOMOTO Co.,Ltd.

東証一部 証券コード:6928

2021年3月期決算実績



- 付加価値の高い製品の取り込みが売上増、利益増に寄与し、加えて原価低減による売上総利益の改善で増収増益を達成
- 繰延税金資産を追加計上したことから法人税調整額が減少し、当期純利益は63%増益

	2020/3期		2021/3期		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前年比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	22,647	100.0	22,999	100.0	+1.6	-
売上総利益	3,593	15.9	3,815	16.6	+6.2	+0.7
販管費	2,234	9.9	2,252	9.8	+0.8	△0.1
営業利益	1,358	6.0	1,563	6.8	+15.1	+0.8
為替差損	△34	-	△43	-	△26.5	-
経常利益	1,394	6.2	1,561	6.8	+12.0	+0.6
当期純利益	912	4.0	1,489	6.5	+63.2	+2.5
1株当たり純利益	135.87円	-	221.66円	-	+63.1	-

- 上期はコロナ禍による自動車生産台数減少の影響等を受け、売上・利益とも停滞
- 3Q以降は自動車生産の回復や、スマートフォン・ウェアラブル端末の好調により、増収増益に

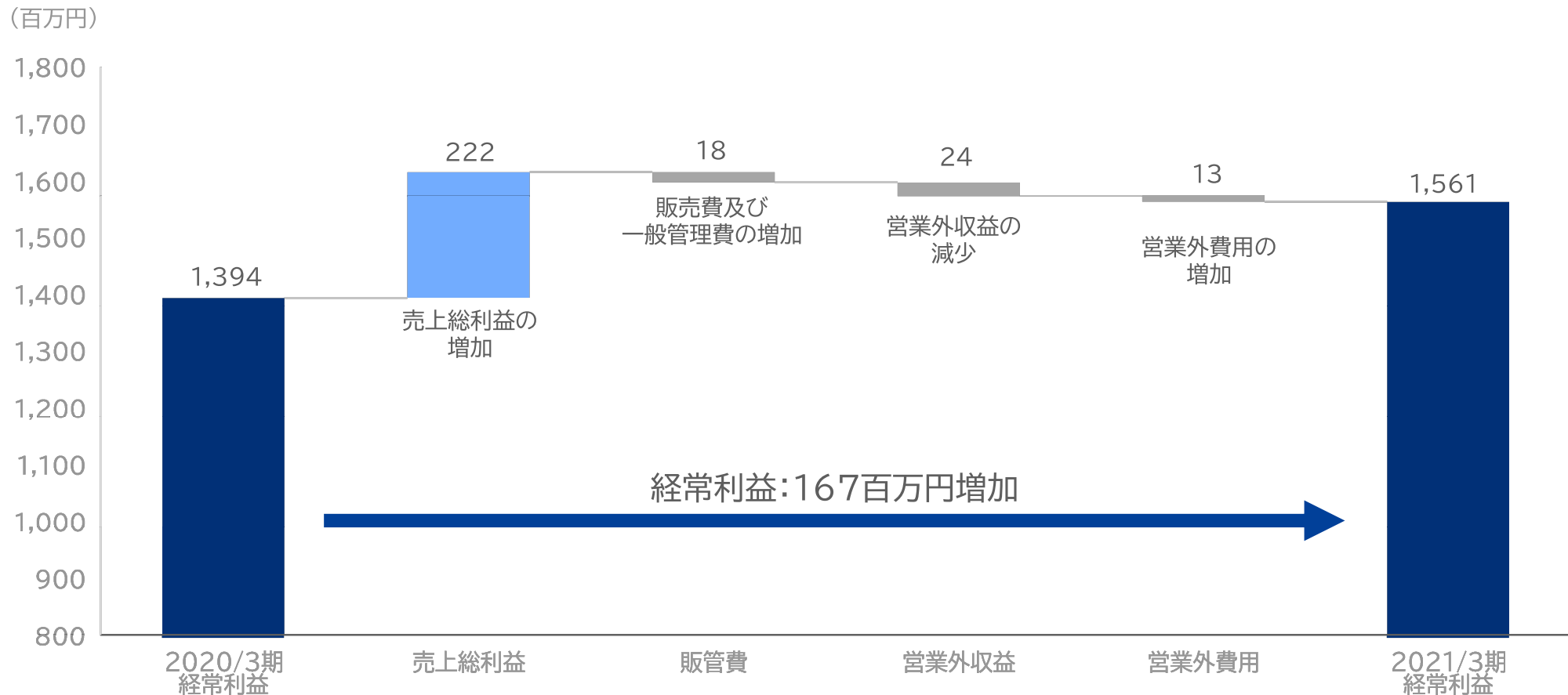
単位:百万円	2020/3期				2021/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	5,531	5,570	5,718	5,826	5,113	5,351	6,296	6,238
売上総利益	837	743	1,020	991	807	737	1,227	1,043
販管費	530	543	533	627	563	533	566	588
営業利益	306	200	487	364	243	204	660	454
為替差損益	△24	0	+5	△15	△5	△10	△33	+6
経常利益	293	208	522	370	253	206	651	450
当期純利益	212	146	375	178	171	160	600	557

- ・ IC・トランジスタ用リードフレームは、自動車向けが上期停滞したものの、下期以降は海外での需要が強く急速に回復
- ・ オプト用リードフレームは、自動車向け、大型ディスプレイ向けが3Qまで停滞したものの4Qは回復
- ・ コネクタ用部品は、スマートフォン・ウェアラブル向けが伸長。4Qも季節調整が緩やかであり、堅調に推移

単位:百万円	2020/3期					2021/3期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前年比
IC・トランジスタ用 リードフレーム	1,892	1,868	1,807	1,919	7,485	1,735	1,516	1,911	2,123	7,287	△2.6%
オプト用 リードフレーム	646	693	784	729	2,854	678	615	530	814	2,639	△7.5%
コネクタ用部品	2,813	2,829	2,936	2,974	11,554	2,530	3,054	3,686	3,112	12,384	+7.2%
その他	179	179	189	203	752	168	164	168	187	688	△8.5%
合計	5,531	5,570	5,718	5,826	22,647	5,113	5,351	6,296	6,238	22,999	+1.6%

2021年3月期 経常利益増減要因

- ・ 製造工程の自動化・効率化による原価低減で売上総利益率が改善
- ・ 営業外収益は前期計上した一時的な保険金収入により減少
- ・ 営業外費用は一時的な金融費用の発生と、為替差損の増加



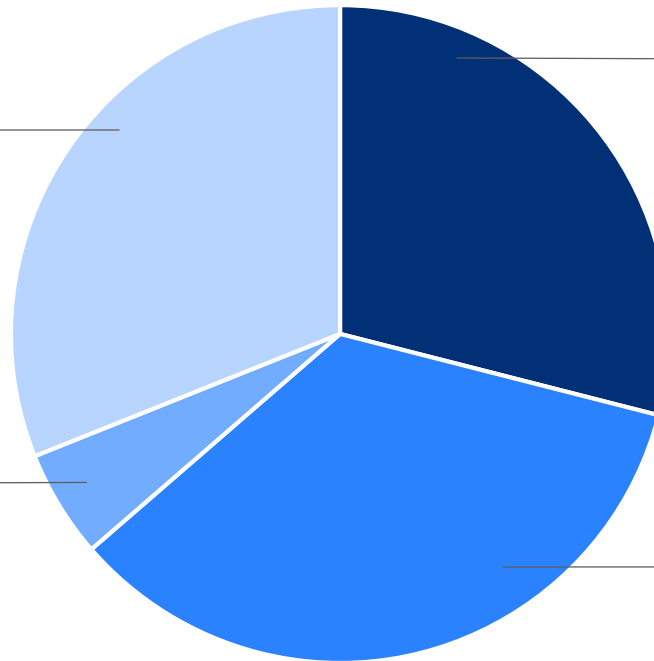
- ウェアラブル端末向けの売上高が前年比70.6%増加し、売上構成比も上昇

民生・産機・その他 31.0%

- 構成比は前期の32.4%から1.4pt低下
- データセンターやサーバーといった情報通信関連需要が中長期的な成長の見込み

ウェアラブル 5.3%

- 構成比は前期の3.2%から2.1pt上昇
- ヘルスケア需要などにより市場は引き続き成長基調



車載 29.0%

- 構成比は前期の31.0%から2.0pt低下
- 上期は自動車生産台数減少の影響を受け停滞したものの、下期以降は回復基調で推移

スマートフォン 34.7%

- 構成比は前期の33.5%から1.2pt上昇
- 人の動きの停滞を補完する役割を有するデバイスでもあることから堅調な推移

2022年3月期業績予想



- ・ 売上高は、4Qに例年並みの季節調整が入る前提に、前期並みを予想
- ・ 一方で、高付加価値品の増収により営業増益を予想
- ・ 当期純利益は繰延税金資産の追加計上など一時的な増益要因がなくなることから、減益と予想

	2021/3期		2022/3期		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	予想 (百万円)	売上比 (%)	前年比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	22,999	100.0	23,000	100.0	+0.0	-
売上総利益	3,815	16.6	3,850	16.7	+0.9	+0.1
販管費	2,252	9.8	2,200	9.6	△2.3	△0.2
営業利益	1,563	6.8	1,650	7.2	+5.5	+0.4
経常利益	1,561	6.8	1,600	7.0	+2.5	+0.2
当期純利益	1,489	6.5	1,350	4.6	△9.3	△1.9
1株当たり純利益	221.66円	-	200.79円	-	-	-

- ・ リードフレームはパワー半導体向けなどの伸長により増収を予想
- ・ コネクタ用部品はスマートフォン・ウェアラブル端末向けは堅調な推移と予測するが4Qの季節調整を前提に前期並みを予想

	2021/3期		2022/3期		
	実績 (百万円)	構成比 (%)	予想 (百万円)	構成比 (%)	前年比 (%)
IC・トランジスタ用 リードフレーム	7,287	31.7	7,423	32.3	+1.9
オプト用 リードフレーム	2,639	11.5	2,697	11.7	+2.2
コネクタ用部品	12,384	53.8	12,450	54.1	+0.5
その他	688	3.0	427	1.9	△37.9
合計	22,999	-	23,000	-	0.0

- コネクタ用部品では津軽工場増築に伴う設備投資が大きく増加
- その他の設備投資はERPシステムの入替え等に伴うもの
- 津軽工場の新棟の竣工は11月末を予定しており、減価償却費の増加は軽微

	2021/3期	2022/3期	
	実績 (百万円)	予想 (百万円)	前年比 (%)
設備投資	2,173	4,119	+89.5
IC・トランジスタ用リードフレーム	210	223	+6.1
オプト用リードフレーム	184	235	+27.7
コネクタ用部品	1,732	3,290	+89.9
その他	45	370	+722.2
減価償却費	1,546	1,600	+3.4

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。